

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年10月19日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873300735		
法人名	有限会社 あおいとり		
事業所名	グループホーム あおいとり	ユニット名	A棟
所在地	〒311-0134 茨城県那珂市飯田2388-5		
自己評価作成日	平成22年4月28日	評価結果 市町村受理日	平成22年10月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成22年6月14日	評価確定日	平成22年9月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者の食事に関しては、旬のものや地元のを積極的に取り入れています。
------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は自家菜園で収穫した野菜を近隣住民とやりとりするなど交流を深め、地域に溶け込んでいる。 利用者が自宅で暮らしていた時と同じ生活リズムで過ごせるよう支援している。 職員は自分も入りたい事業所にしたいとの思いを抱いており、終末期においてもその人らしく暮らせるように利用者や家族等の意向を大切に支援している。
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ここが私の家と思える環境を整え、自分も入りたいと思えるホームを作る。」との理念を掲げると共に、管理者や職員は朝礼や職務の中で理念を確認し共有している。	「ここが私の家」「自分も入りたいと思えるホーム」などのキーワードを含む理念を掲げ、朝礼や職務の中で確認している。 利用者が自宅で暮らしていた時と同じ生活リズムで過ごせるよう支援している。 地域密着型サービスとしての観点を理念に盛り込むまでには至っていない。	地域密着サービスとして何が大切かを考えて理念を見直すことを期待する。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員や利用者は散歩時に近隣の人々と挨拶を交わすなど、顔見知りの関係を築くとともに、季節の野菜をもらったり、地域のお祭りや敬老会に参加するほか、ホーム主催の行事に地域の人々が参加するなどで交流している。	散歩時の挨拶などを通じて顔馴染みになった地域住民がお茶飲みに来訪するほか、季節の野菜をやりとりするなど、利用者が地域の一員として日常的に交流している。 中学生や傾聴ボランティアが来訪し会話を楽しんだり、利用者は地域の祭りや敬老会などに出かけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア、学生の体験学習、ホームヘルパー2級、各実習の受け入れを通し、グループホームの在り方を伝えている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者や家族等、区長、民生委員、地域包括センター職員、市職員で開催しているが、委員やホームの都合で定期的開催するまでには至っていない。会議では利用者の生活状況を報告すると共に、利用者の家族等から出た意見・要望について話し合っている。外部評価の結果を運営推進会議や利用者の家族等に報告したり、評価で明らかになった課題の改善に取り組むまでには至っていない。	参加者の日程が合わないなどの理由で、運営推進会議は平成20年6月以降開催していない。	運営推進会議の重要性を認識し早急に日程を計画するほか、出席可能な参加者で開催するなど、2ヶ月に1回開催することが望まれる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は市役所に出向く際には担当者にホームの様子を報告し意見を求め、アドバイスを得ている。	市担当者に入退去や入退院など利用者の状況を報告する機会を捉えて、感染症予防などの情報を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者や職員は身体拘束をすることで利用者が受ける兵員街を理解するとともに、話し合いながら身体拘束をしない支援に努めている。職員は常に利用者に目配りし、玄関や庭のフェンスは施錠していない。	事業所内に身体拘束防止のポスターを掲示するとともに、職員の見守りによる安全確保に努め、玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 職員は身体拘束防止の理解に向け、定期的に話し合うまでには至っていない。	身体拘束をしないケアの継続に向けて、定期的な話し合いを期待する。
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を利用し、活用している。ホーム内には閲覧しやすい箇所にポスターを貼り付けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同上。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際は、契約書／重要事項説明書への記載・押印をお願いしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームの苦情受付担当者、及び第三者機関（那珂市保険課）の苦情受付窓口を明記している。職員は家族等の訪問時に話を心掛けると共に、出た意見をその都度職員で話し合っているが記録に残すまでには至っていない。以前は意見箱を設置していたが投函がないため現在は設置していない。	玄関に「どんな小さなことでもご相談ください」という掲示をするとともに、意見箱を設置している。 家族等が来訪した際に、利用者の様子を報告しながら意見や要望を聴くようにしている。 家族等から「できるだけ運動させてほしい」など具体的な要望があり対応している。 利用者や家族等から出た意見や要望を記録するまでには至っていない。	利用者や家族等から出た意見や要望の対応経過について、記録することが望まれる。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議は設けていないが、管理者が職員の意見をいつでも聞ける体制になっている。各棟管理者、各棟リーダーによる会議はその都度行っている。	ユニット毎の管理者の下にリーダーを置き、職員がリーダーを通して自由に意見や提案を言えるようにしている。 「介護職員が手薄になる時間帯をつくらないように勤務シフトを見直すべき」という職員の意見を取り入れて運営に反映させている。 全職員が出席できる時間が取れないという理由から、定期的なミーティングを開催し職員の意見や提案を聞くまでには至っていない。	管理者は定期的なミーティングを開催し、職員の意見を汲みあげるよう努めることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者・事業者が、職員の話をよく聞き、職員のストレスを緩和する取り組みをしている。また、職員同士で気付いたところを、その都度、指摘しつつ、常々業務への向上に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加し、勉強会などで研修内容の発表を行っている。また、管理者は指導・助言をしており、定期的な勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	お互いの職員の訪問時や外部研修等の機会に、意見交換しつつ、業務に反映させている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の相談に関しては、本人・家族・支援者等関係者それぞれの意向を、なるべく集まった形で、客観的に聴く機会を多く設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	あくまで、本人の気持ちを重視しつつ、関係者それぞれが「無理のない」形でサービス利用できるように対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	大変な時には利用者が職員に労わりの言葉を掛けて下さる。高齢者は人生の先輩なので、教えられる場面は多い。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係も基本的には良好に保っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者は知人の訪問でゆっくり会話をしたり、利用者が長年生きた理美容室に継続して通うなど、これまでの人間関係や馴染みの場所との関係を断ち切らないよう支援している。管理者や職員は利用者の生活歴の把握に努めているが、全利用者の生活歴を記録するまでには至っていない。	利用者の知人が面会に来た際に、ゆっくり話ができるよう支援するとともに、再来してもらえよう働きかけている。 利用者が馴染みの理美容院に行けるように家族等に働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で関わりを持つことで、生活意欲に反映できる場面も多い。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	元利用者の家族の訪問も多い。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者が自分の思いを伝えることが困難な場合には、表情や行動をなどから思いや意向を把握するように努めている。	入居時のアセスメントにおいて、生活歴や職歴、趣味、利用者が望む生活などを聴き取り記録している。日々の生活での何気ない言動や表情から、思いや意向を把握するように努めているが記録に残すまでには至っていない。	把握できた思いや意向を記録し、全職員で共有することが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や要望など情報収集には家族を必ず交えている。アセスメントには日常会話の中で見え隠れしている訴えに目を向け、本人の希望や意向の把握に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	同上。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	「本人の意向」「家族の意向」との形で情報を分けている。「本人の言葉」にも留意しつつ、種々の情報をプランに反映させている。期間設定はあくまで目安とし、見直しの必要性が生じた時点で、プランの変更を図っている。	介護支援専門員が作成した計画案をもとに、看護師や介護職員と話し合いながら、現場の意見を反映した介護計画を作成しているが、利用者や家族等の意見を取り入れるまでには至っていない。 6ヶ月毎に介護計画を更新しているが、更新に向けたモニタリングや評価は行われていない。	介護計画は利用者や家族等の意見等を取り入れて作成するとともに、目標達成状況のモニタリングや評価に基づいた介護計画の見直しが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録として、身体状況・朝昼夕の過ごし方を具体的に記録している。それをもとに、統一されたケアに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	大まかな行事予定は組んでいても、基本的には「何でもあり」の支援を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物・散歩・外食等、当たり前の暮らしができるように近所と顔見知りの関係を作る働きかけをしている。また、必要に応じて、市内各サービス事業者との情報交換を図りつつ、支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は家族等や職員の支援を受けながらかかりつけの医療機関で受診するとともに、受診結果は職員や家族等で報告し合い共有している。	契約時に利用者のかかりつけ医を把握するとともに、必要に応じて職員が同行して医師に病状を伝えるなど、利用者や家族等が希望する医療機関での受診ができるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は確保している。基本的には看護職員を中心にして、適宜、対応への指示を仰いでいる。		



☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、職員が頻繁に面会に行き、医療機関との情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	この1年の間で3名の看取りを経験している。終末期の意思確認書を作成し利用者や家族等の意向を把握するとともに、家族等には状況に合わせて意志確認書の更新を促している。看取り介護実施要領を作成し、職員や医療機関、家族等の役割を明確にしている。	看取り介護に関する指針や実施要領を定めるとともに、契約時に利用者や家族等に説明し同意を得ているほか、終末期の意向を書面で確認している。 看取り介護の実施における経過や家族等との話し合いの結果を記録するまでには至っていない。	職員は利用者や家族等の意向や要望が時間とともに変化することを再認識し、利用者や家族等との話し合い結果やカンファレンス結果を記録し、介護計画に反映させることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講習会に出席したり、定期的に研修を実施するなど、職員全員が応急手当を行えるように学習しているが、一部の職員に頼りがちになっていることが多い。対応策について話し合いを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や消火訓練は年2回定期的に行うとともに、飲料水を備蓄している。管理者は地域の人々に日常の会話の中で避難訓練の参加を依頼しているが、協力を得るまでには至っていない。	年2回避難訓練を実施し反省点を記録しているが、夜間を想定した避難訓練を実施するまでには至っていない。 管理者は日常会話の中で、地域の人々に避難訓練への参加と協力を呼びかけているが、実現するまでには至っていない。	事業所のすぐ近くに消防団詰め所があるという利点を活かすためにも、運営推進会議など様々な機会を捉えて地域との協力体制構築に向けた呼びかけをすることが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者の人格を尊重しつつ支援している。利用者とのなじみの関係を築きつつも、呼称には留意している。利用者に関する書類を管理する場所にはまだ苦慮している。	前回の外部評価結果を踏まえて、利用者の人格を尊重するという観点から呼称を「さん付け」で統一した。 トイレ誘導時に、「こちらにどうぞ」という言葉かけをするなど、利用者の誇りやプライバシーに配慮している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が安心できる生活環境を作れるように一人ひとりに合わせた声掛け・スキンシップを心掛けている。				
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴・趣味等についての情報は入所時に家族から教えてもらい、記憶の中で一番鮮明な部分を把握してケアに活かすようにしている。				
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回来てもらう美容師に好みに合わせてカットしていただく。自己決定できる方には、自由にしていたが、サポートが必要な方については、その人らしいお洒落に気遣っている。				

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が日々楽しみにしている食事に力を入れている。自家菜園でできた旬の野菜を多く使う献立を作成するとともに、おかずは目でも楽しむことができるよう小鉢に分けている。食材の下ごしらえや、梅干しなどの保存食も利用者の経験を活かしながら作っている。栄養バランス・摂取量は大まかに把握しているが、専門家からのアドバイスを得るまでには至っていない。	利用者はそれぞれの能力に合わせて食事準備や後片付けをしている。職員は自家菜園で収穫した旬の野菜をメニューに取り入れたり、誕生日や季節行事で特別メニューを提供するなど、食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調や状態によって、栄養バランスを考えた献立を作り、大まかな摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは入居者本人に任せているが、困難な方は状況に合わせて職員が対応している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の状態に合わせてリハビリパンツやパッド、オムツの使用を検討するほか、排泄チェック表を活かし時間を見計らってトイレ誘導をしている。	排泄チェック表から把握した利用者毎の排泄パターンに基づいた誘導により、できる限りトイレで排泄できるように支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	いも類・ヨーグルトなどを食事やおやつに取り入れ、便秘予防の取り組みの一つとしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴回数や時間帯は利用者の希望に沿って体調を確認しながら支援している。入浴を拒む利用者への支援には苦慮している。	入浴の曜日や時間帯は特に決めず、利用者の希望に合わせて入浴支援をしている。 入浴を拒む利用者への対応について、様々な工夫をしているが、利用者に合わせた対応策を考えるまでには至っていない。	入浴を拒む利用者への対応について、他事業所の取り組みなどを参考にしながら工夫を重ねていくことを期待する。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者に合わせて、適宜、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者各個人の処方箋をファイルに綴じており、職員がいつでも確認できるようにしている。服薬時には、本人に手渡しをし、確実に内服できているか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに役割を持っていただき、できる力を最大限に発揮できる場面作りをしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者は散歩や買い物、外食、地域のバザーや敬老会等に出掛けるほか、ドライブで車窓を楽しみ気分転換を図っている。	天気の良い日は、ほぼ毎日事業所周辺を散歩している。 月に数回近くのスーパーに食材や日用品の買い物に出かけるほか、年に数回ドライブを兼ねてぶどう狩りなどに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が困難な方は、職員が管理しているが、外出時にはお金を渡し、ご自身で買いたいものを選んで頂き、支払って頂く。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご友人との繋がりを保って頂くため、電話や葉書の取り次ぎ等の対応をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に大きな茶箆箆や神棚があり落ち着いた雰囲気になっている。暑すぎず冷えすぎないように空調機を利用して温度を調節している。ユニット間の通路に唐辛子や蓮の実を干し見て楽しんだり、門付近ではプランターで季節の花や野菜を育てたり、庭にはベンチ・テーブルを置き、利用者が自由に寛げるよう工夫している。	共用空間にピアノや大きな茶箆箆を配置するとともに、季節の花や観葉植物、壁面に利用者が描いた絵画を飾るなど、家庭的な雰囲気を醸し出すよう工夫している。 玄関横のスペースに手作りのテーブルと椅子を用意するなど、利用者が思い思いに過ごせるよう支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置いたり、中庭に自由に出ることができるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に利用者が使い馴染んだ箆笥・テーブル・椅子を置いたり、昔描いた絵や手芸品、家族等の写真等を飾り利用者が居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室に仏壇や使い慣れた箆笥、籐いす、家族写真、ぬいぐるみが持ち込まれ、利用者それぞれに居心地良く暮らせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて空間の調節を行っている。全体的な設備は入居者の目線に合わせており、手摺の配置は勿論、浴槽には立ち上がりやすいように椅子を用意したりの工夫を行っている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている ○ 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない



(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム あおいとり

作成日 平成22年10月10日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4, 35	運営推進会議が開催できない。	運営推進会議の開催。	9月に開催した。次回は、11月に開催予定。区長や民生委員の参加調整は難しいところ。2~3ヶ月先の予定もつかないことが多い。	既に達成。
2	10, 11	運営に関するそれぞれの意見の反映。	記録等による意見の汲み上げ。	家族等のちょっとした意見をポストイット等のメモにて集約している。30分程度ながら、皆で集まる時間を極力作っている。	既に実施。
3	23	思いや意向の把握。	同左。	上記の方法により、思いの把握に努めている。	既に実施。
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。